

# 望遠鏡時間の運用 定常状態(ドーム有)を想定

太田耕司  
京大宇宙物理

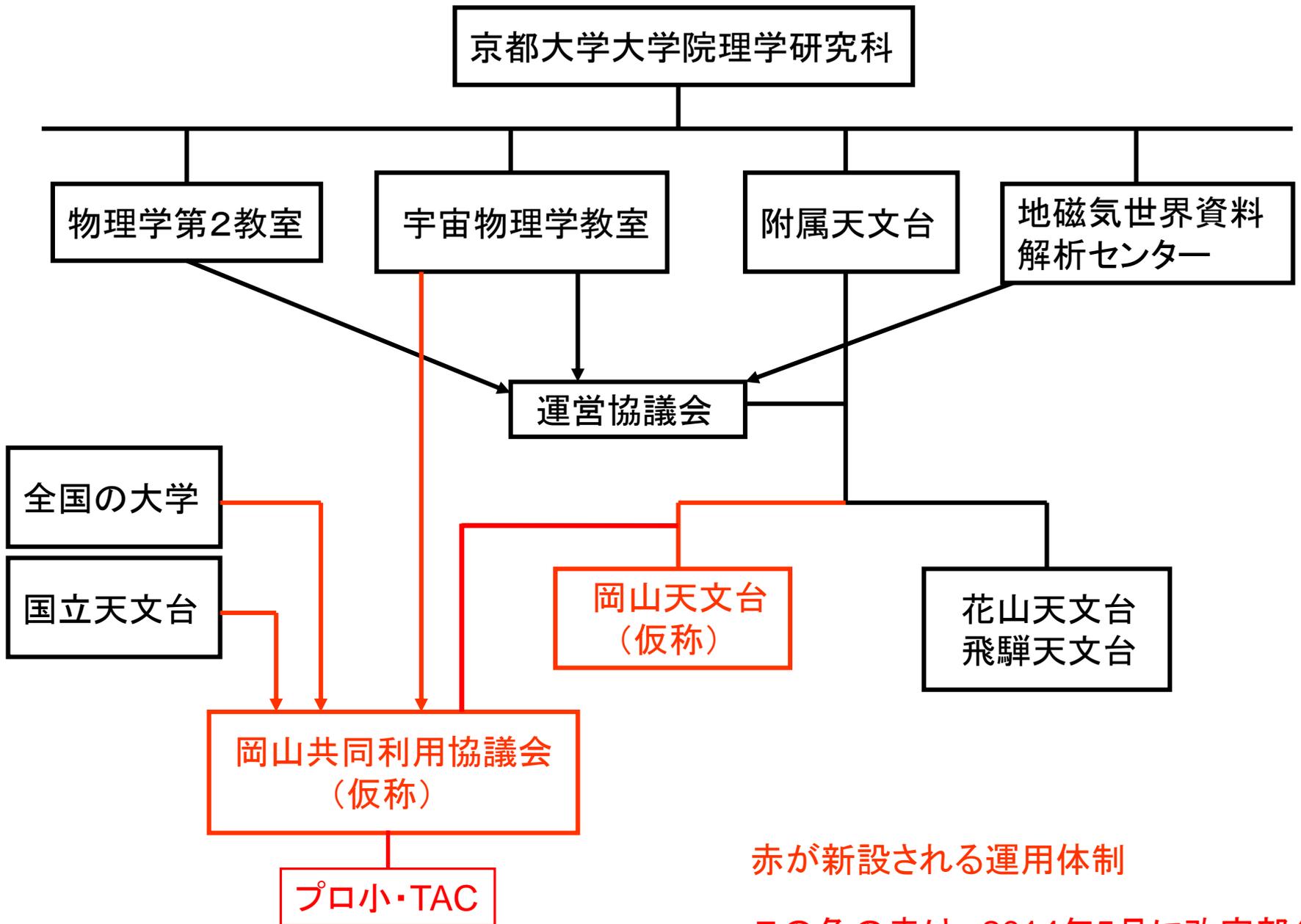
2014年5月22-23日  
3.8mサイエンス・装置・運用WS  
於三鷹

# 内容

- 運用の枠組
- 共同利用観測装置 推進体制
- 共同利用観測時間の運用方法
- サイエンス・装置・運用委員会設置
- 等

### 3. 8m望遠鏡運用枠組

- 京大サイドでは、方針はほとんど不変  
(2000年頃から同じ方針)
- 岡山UM等でも2年に一度程度紹介・議論



赤が新設される運用体制

この色の赤は、2014年5月に改定部分

# 運営組織

- 共同利用協議会(仮称)

運営(予算、人事?)、時間の割振、新規参入?

各大学代表、ユーザー代表、国立天文台、京大

- この下にプログラム小委員会

レフェリー制?レフェリー兼ねる?

現岡山プロ小と似たようなものなのか

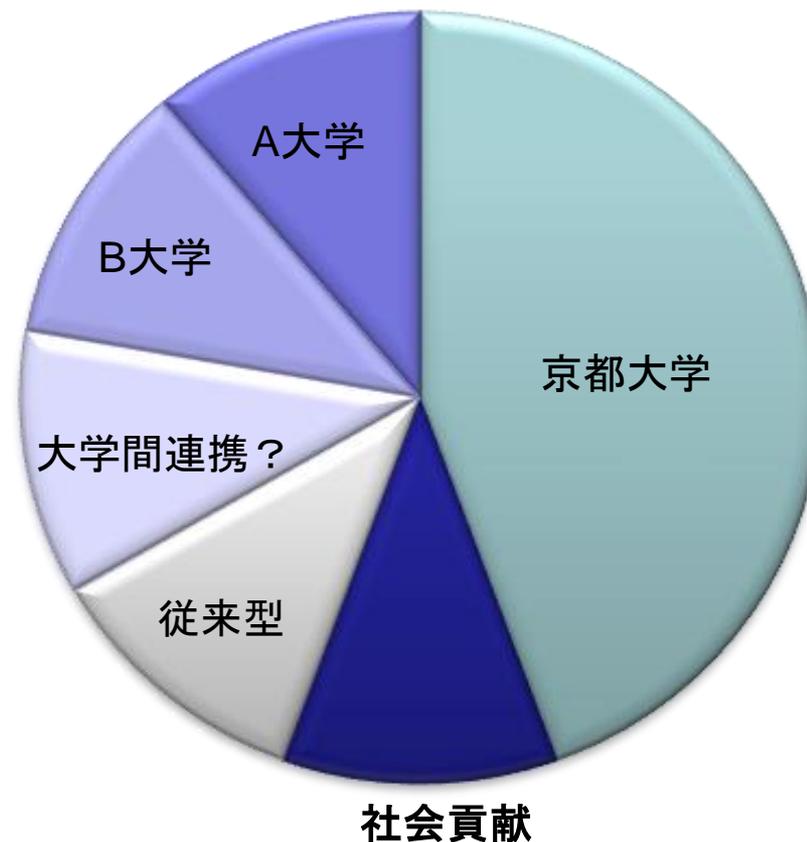
TAO(やUH88?)等を見渡すプロ小?

大学間連携のプロポーザルにするのがよいかも?

そうだとするとこの天文台直下の組織ではなくなる?

NAOの下に、中小口径のプロ小を設置?

A, B大学、従来型の  
数・割合は今後の状況次第  
今のところ、A, B大学の提  
案はない。



WS中での注:

大学間連携は、現在の運営方式に  
従うなら、京大枠に入る。共同利用  
枠では実施しない。

# 運用のイメージ

- 従来型共同利用モード時

原則1晩を最小単位(夜に大きな装置交換なし)

装置交換的には1週間単位がありがたい

とはいえ、とびとび観測の需要高いし、ToO観測も頻発だろう

⇒装置交換ではなく、稼動型装置?(ファイバー移動とか)

最大申請夜数は?

- 大学への割付モード時

一週間単位?数週間もあり?その中での使い方はその大学の裁量  
(とびとび観測やToOの割り込み可?装置による?)

共同研究で他の大学と一緒に観測するも可

マシンタイム買取?(運営費、科研費など)

大学枠は全体の何%まで?

(大学には国立天文台の1グループも含まれる)

# 運用のイメージ2

- 従来型共同利用ではキュー観測??

(大学間連携も?)

人手がいるが、観測効率はよいだらう

教育的にはよくない?

キューの実施の仕方にはいろいろあり得る

- リモート観測?
- 国際枠?

### 3. 8m望遠鏡・サイエンスと観測装置計画

装置	サイエンス	PI	備考
高速測光・分光器	激変星等	野上	既存(要改修)
可視面分光装置	GRB・重力波 他	太田	開発中
高コントラストカメラ	系外惑星	松尾	開発中(1ナスミス占拠)
可視近赤外撮像・分光装置	QSO進化	岩室	検討中
可視高分散分光器	スーパーフレ ア・系外惑星等		予算申請中 (HIDES後継機)
(多色広視野同時カメラ	系外惑星	成田	開発中)
NIR高分散分光	M型星の周りの惑星	田村・小谷	検討中

# タイムスケジュール

年度	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	
望遠鏡・ドーム	建設・調整	-----→			共同利用	
高速測光・分光	既存			3.8mへ		
可視面分光	開発	188cm		3.8mへ		
高コントラストカメラ	開発	-----→			3.8mへ(機能強化)	
可視高分散	予算申請	開発	-----→			3.8m
可視・NIR撮像分光	検討中					
多色広視野同時カメラ(*)	開発	188cm	-----→			研費終了後3.8mへ??
NIR 高分散 (**)	検討中		開発?		3.8m	

• : PI=成田氏(国立天文台) 3.8m移行は未定

\*\* : PI=小谷氏(国立天文台)、田村氏(東大) 最終共同利用目指したい?

# 論点

- 共同利用のあり方、共同利用観測装置
- 大学時間の考え方
- 上記のような検討を行う委員会の設置